

VI-33 道路整備からみた東北地方の地域課題に関する一考察

東北地方建設局 道路計画第二課 野中 宏

○ 工藤栄吉

1. はじめに

わが国の道路整備は、昭和29年に始まった第1次道路整備五箇年計画以降、これまで10次にわたる五箇年計画により着実に進められ、現在、第11次の五箇年計画（案）が決定されようとしているところである。東北地方における五箇年計画を策定するために、その前提となる東北地方のこれからの道路整備のありかた（道路整備の将来ビジョン）を検討した。検討に当たっては、まず東北地方の地域特性を踏まえ、地域の問題・課題は何かを明確にする必要がある。東北地方の多数のオピニオンリーダーの方々の意見を踏まえて分析したその結果について、以下に概要を紹介するものである。

2. 東北地方の地域の問題・課題

東北地方の面積は、6県で約6万7千 km^2 で日本の約18%で北海道に次ぐ広大な面積を有している。人口は約974万人で日本の約8%で、人口密度は146人/ km^2 で全国の324人/ km^2 の約45%となっている。この広大な面積に対し、比較的小さな都市が分散しているのが特徴である。

従って東北地方の主な問題点をあげると、都市と都市の間の時間距離が長いこと、これが交流の少ない地域構造を呈している。また、他の地方に比べて都市の規模が小さいものが多いこと、都市機能や都市的魅力が不足しているということが地域の停滞の一つの要因ともなっている。

次に、東北地方を概ね同じような地域特性を有する3地域に大別し分析すると以下のとおりである。

〔主として北東北〕

北東北などは、大都市圏から遠い地理的制約と積雪寒冷な気象条件は、人と物の円滑な交流を妨げ、産業活動の制約ともなっており、全国的な産業集積との差を生じさせてきた。また、こうした立地条件や産業集積の少なさが、投資効果最大を求める民間・社会資本（南東北や太平洋側に比べ、高速交通整備は遅れている）の新規展開を阻み、一層、地域の産業集積を遅らせることとなった。その結果、魅力ある雇用の場の不足、生活環境の不備等により、若年層の流出・高齢化の進行を伴いながら、人口は減少し→交流の不活発→民間・社会資本の不足→産業集積の立ち遅れ→人口減少→交流の不活発といった悪循環を呈し、全国や南東北に比べ所得格差を生じ、人口減少と高齢化が進行している。

・東北の平均都市間距離は全国平均の1.4倍
・全国に比べ3～5万人規模の都市が多く、10万人以上の都市の比率が小さい。

高次都市機能特化度

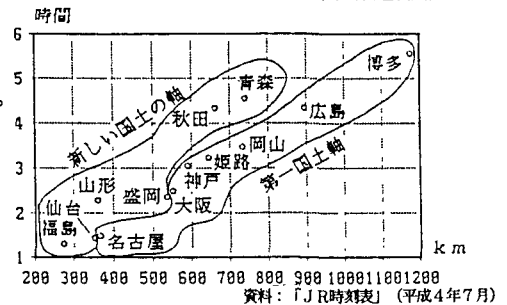
青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
三沢市 0.89	釜石市 0.55	白石市 0.51	湯沢市 0.51	天童市 0.80	会津若松市 0.56
八戸市 0.75	宮古市 0.68	古川市 0.61	能代市 0.98	米沢市 0.78	いわき市 0.53
青森市 1.14	北上市 0.74	石巻市 0.50	大館市 1.11	酒田市 0.94	郡山市 0.69
	盛岡市 1.13	仙台市 0.71	秋田市 1.35	山形市 1.53	福島市 0.84

※都市機能特化度＝各市の施設数／全国同程度の市の平均施設数

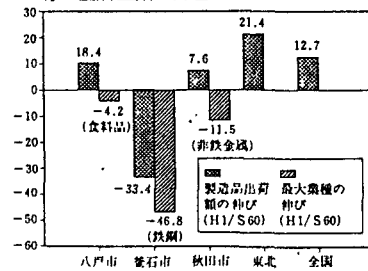
（施設：教育、文化、医療、経済・商業、娯楽）

資料：「都市機能施設整備状況調査」 建設省東北地方建設局

主要都市から東京までの距離と時間（鉄道利用）



製造品出荷額の伸び（H1/S60）
%（基幹産業の衰退）



〔主として東北幹線軸地域（4号沿線盛岡以南や、13号沿線山形以南等）〕

新幹線、高速道路等の高速交通網の整備が先行した東北幹線軸地域においては、都市が連担化し、工業立地も進み、所得水準も東北平均に比べれば、相対的に高く、一応の活力を有している。しかしながら、生産性やくらしの便利さ文化・娯楽等のにぎわい度が低く、居住環境整備も遅れているのが実態である。また、同じ幹線軸の中でも中核都市や幹線沿いへの産業・人口の偏った集中に対し、幹線沿線以外の地域との格差が拡大しているところである。

〔主として中核・中核都市圏（県庁所在都市などの人口20万人以上の都市圏）〕

中核・中核都市については、人口・産業集積が進んでいるものの都心部へ一点集中するとともに、市街地が低密度にスプロール化し、しかもそれらに対応した生活環境基盤（道路、下水道等）が追いつかず、また、地域全体の発展を牽引する拠点としての諸機能が不足していることにより、東北地方の自立的発展を遅らせているところとなっている。

以上のことから、地域別整備課題を整理すると下表のとおりとなる。

地 域 別 整 備 課 題

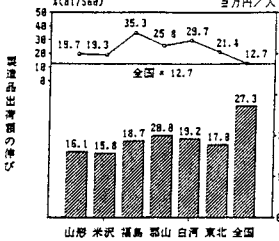
北 東 北	東 北 幹 線 軸	中 核 ・ 中 核 都 市 圏
・ 広域交流条件の向上 ・ 都市の魅力向上 ・ 生活環境整備 ・ 基幹産業の強化、新規産業の誘致	・ 中核都市の機能向上 ・ 産業の高度化 ・ 周辺地域との連携発展	・ 中核都市の拠点機能の充実

4. おわりに

以上のように、東北地方の地域の課題について、地域特性を踏まえながら整理したが、この課題を克服する方法の1つとして、地域の連携による地域集積圏の拡大が重要である。地域が一体となって連携する地域集積圏を形成させるためには、地域間、都市間の時間距離を短縮する道路整備が必要である。

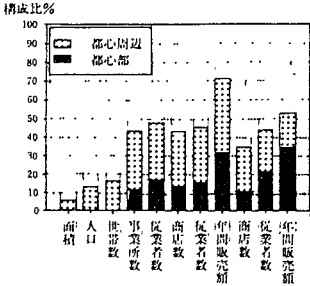
今後は、その実現に向けて、アクセス機能よりも走行機能を重視した道路整備が重要になってくると考えられる。

地方生活圏別製造品出荷額の伸び率と労働生産性水準



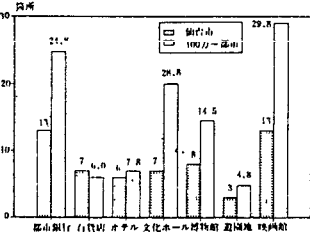
資料：工業統計

仙台市中心部への商業機能集積割合



資料：国勢調査、事業所統計、商業統計

100万都市と仙台市の高次都市機能施設



資料：「都市機能施設整備状況調査」 建設省東北地方建設局